

下眼瞼形成術（ハムラ法） 説明・同意書

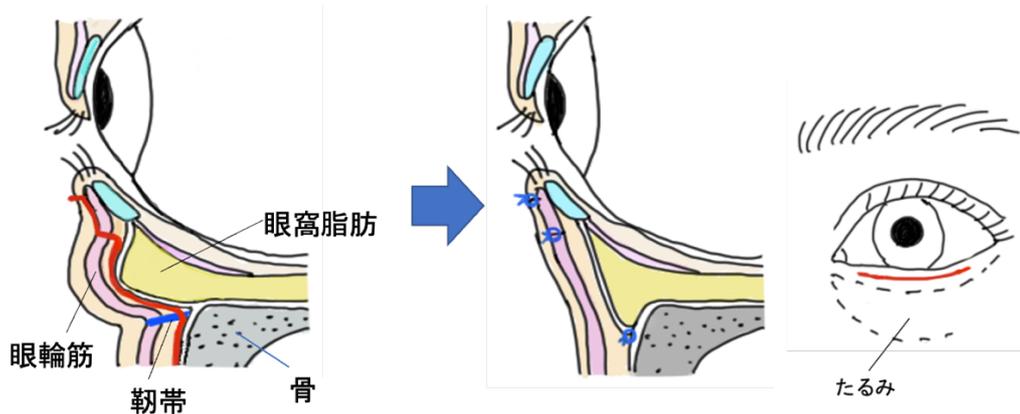
ハムラ法

眼球を支えている眼窩脂肪が前方に突出してくることが原因で生じる目の下のクマ、たるみを改善させる手術方法です。

手術方法

局所麻酔で行います。下まぶたの辺縁から約2mm下の皮膚を2-3cm切開します。頬骨まで進み、頬骨の骨膜に付着している眼輪筋や靭帯を骨膜から剥がし、凹みを解除します。眼窩脂肪を引き出して頬の骨膜に糸で固定し、凹凸を改善させます。眼輪筋と皮膚を糸で縫合して終了します。皮膚が余る場合には、同時に皮膚切除を行うこともあります。手術時間は両目で1時間半程度です。抜糸は通常7日後に行います。

イメージ図



合併症

出血、血腫

：手術後の出血を予防するため、2日間は自宅で安静にし、保冷剤などで十分に冷やしてください。血腫（血の塊）は通常吸収されますが、出血が止まらない場合は、処置が必要なことがあります。

腫脹、出血斑

：術直後～3週間程、目立つ腫れや青あざが生じることがあります。これらを軽減するため、2日間は自宅で安静にし、保冷剤で十分に冷やしてください。腫れや青あざは通常、術後3週間程度で治まります。

キズが開く

：術後にぶついたりこすったりするとキズが開き、再度処置が必要なことがあります。

感染

：手術部位が感染する可能性があります。感染症が発生した場合、抗生物質の投与や追加の治療が必要になることがあります。

下瞼の外反

：術後の癒痕や創部の引きつれにより、一時的に下瞼の外反が起こることがあります。

左右差

：手術後、左右の形が異なることがあります。通常は術後3か月程度で落ち着きますが、左右差が残ることもあります。

矯正不足

：多くのケースでは、術後3か月程度で落ち着きますが、たるみが期待ほど改善しないことがあります。

癒痕形成

：手術後のキズ跡は赤く目立つことがありますが、通常は徐々に改善します。癒痕が目立つ場合には、追加の治療が必要になることがあります。

再発

：時間の経過とともに、クマ・たるみが再発する可能性があります。再発した場合、再度ハムラ法をすることは難しく、他の治療法を検討することがあります。

麻酔アレルギー：麻酔薬による気分不良、アナフィラキシーショックにはすみやかに対応します。

\$PATIENT_ID\$
(説明メモ)

\$PATIENT_NAMES\$

施術名 下眼瞼形成術（ハムラ法）

説明日 年 月 日 説明医師： _____

□診療に伴い発生する**施術前後写真**や資料等を「医学教育」や「研究目的」など学会論文発表で**使用することを承諾**します
(個人が同定されないよう、ぼかし加工等を行います)。

□診療に伴い発生する**施術前後写真**や資料等を院内**説明写真**やウェブサイト等**掲載写真**として**使用することを承諾**します。

写真は**施術部位のみ**で個人が同定されないよう、ぼかし加工等を行います。一度承諾しても、再度拒否することは**できません**。

□写真はあくまでクリニックと本人の**確認用途のみ**とし、**第三者への閲覧は承認しません**。

私は、手術の内容および起こりうるリスクを理解したうえで上記手術について同意いたします。

同意日 年 月 日

患者氏名 _____

代諾者氏名 _____ (続柄)

<未成年の方> 親権者の同意が必要となります。 *下記事項は親権者ご本人がご記入ください。

私は、申込者の法的代理人として、貴院での申込者の上記手術に同意いたします。

親権者名		続柄	
住所			
電話番号			